

2 梅の郷特養課 事業報告

① 事業実施期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日

(1) 利用者(定員70名) 延利用者数 25254名
1日平均 69.1名
平均介護度 3.8
介護度別利用者人数内訳 要介護度1 1名
要介護度2 0名
要介護度3 21名
要介護度4 41名
要介護度5 6名
(令和5年3月31日時点の実人数)

(2) 職員数 44名(事務所含む)
(常勤職員34名非常勤職員10名)

(3) 入退所者数 新規入所者数 26名
退所者数 26名

② 個別援助計画

- ・ ケアマネージャーの定めるケアプランに基づき、生活全般の解決すべき課題やニーズを明らかにする中で個々の援助目標を設定し、ケアプランに沿ったサービス提供を行いました。
- ・ ご利用者一人ひとりの情報の共有、把握に努めながら、ご利用者が施設にて安心・安全・笑顔で心地よい生活が過ごせることを大切にし、安心・安全・丁寧を念頭にサービス提供を実施いたしました。

③ 生活支援

(1) 生活支援

- ・ ご利用者が安全に且つ安心して笑顔で心地よい生活を送れることを念頭に置き、職員が利用者の言葉や姿をしっかりと受け止めて働くことを意識して日々の生活支援を行いました。
- ・ 本館50名のご利用者を25名ずつの2グループに分け、新館20名を1グループとし、職員もグループ毎に配置することでご利用者の生活課題の把握を継続しました。
- ・ 担当するグループのご利用者だけでなく、他のグループのご利用者についても身体状況や生活課題を把握し、どの職員でも同じ施設で過ごす利用者へのケアが躊躇なくできるような工夫をしました。
- ・ 職員配置については、グループ間の異動を行い、どのグループのどのご利用

者へも対応できる力がつくように努めることで、職員体制を確保し、職員一人一人の介護量や業務負担軽減を可能な限り行いました。

- ・季節ごとの行事や日常生活の中で実施できる活動については、市内の新型コロナウイルス感染症の発生状況を確認しながら、感染対策を行った上で可能な限り行いました。
- ・体操やマッサージ、日常生活動作訓練等の個別機能訓練を実施し、身体機能の維持に努めました。
- ・日報報告（メール）や突発的な身体状況の変化に伴う報告（FAX）により、嘱託医師と情報共有を行い、医師からの指示による投薬や通院、救急搬送、看取り対応等スムーズな連携を図りました。

（2）特養会議（毎月開催）

- ・ご利用者個々の状態に合わせた介護方法や生活上での疑問点や課題などをグループ毎で話し合い、ケアの統一ができるように情報共有しました。
- ・介護課長、介護主任（グループリーダー）、生活相談員、介護支援専門員、看護職員、管理栄養士での会議を定期的に行い、業務の見直し、ご利用者の課題分析等、各職種からの意見の擦り合わせを行い、多職種連携を図れるようにしました。
- ・重大事故（骨折や介護ミスなど）発生時には、緊急会議を開催し、事故の原因を分析、共有し、再発防止策を検討し、実施しました。

（3）事故防止委員会

- ・更衣介助や入浴介助時において内出血や切傷等の有無確認を行い、発見した場合には、大きさには関係なく報告書を作成し、検証するよう努めました。
- ・要因が明らかな事故だけでなく、原因や時間が特定できない場合の事故（内出血や皮膚剥離も含む）や外傷が無い物も全て報告し、職員間で確認するよう実施しました。
- ・昨年度、施設内で事故報告書の書式を見直し、報告すべきことが記入しやすいように改善したため、事故報告書の記入方法や報告する目的等を適宜説明しながら、継続して基準の統一化を図りました。

令和4年度における事故発生総数（内出血の有無確認含む） 321件

内出血以外の事故発生件数 206件

内訳	転倒転落	92件
	皮膚剥離	24件
	異食	4件
	誤嚥	3件
	暴力	3件

その他 80件

施設内における内出血の事故発生件数 115件

自宅でできた内出血等と思われるもの 0件

発生が多い時間帯：午後から夜間帯にかけて

発生が多い場所：ホール

発生が多い内容：高齢に伴う皮膚状態の悪化から少しの加圧で起きてしまう皮膚剥離や内出血
車椅子からの転落、ベッドからの起きだしによる尻もち等

・事故防止対策

離床センサーの使用、布団対応、見守りの強化、市販の「赤外線センサー」の活用。

超低床ベッドの使用。

・施設内研修

委員会主催の研修会については、新型コロナウイルスの影響により、消防職員の立ち合いで開催される救急法講習（AED講習）が中止となり、全てオンラインによる動画視聴研修としました。

(4) 身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会

- ・ご利用者の身体的な拘束の全廃を継続し、ご利用者の立場に立ちながら拘束とは何かをその都度考え、切迫性（ご利用者本人又は他のご利用者等の生命又は身体が危険にさらされる可能性が著しく高いこと）の場合でも、「身体拘束は行わない」ことを念頭に代替方法を常に考えました。
- ・時間的拘束を無くすようにご利用者中心の生活を意識できるよう努め、委員会内においても「言葉遣い」「振る舞い」などが職員同士意識できるような議論を深めました。
- ・ご利用者への処遇において、丁寧さに欠ける言葉づかいや振る舞いが見られる要因として、職員が抱える身体的・精神的ストレスが多少なりとも影響しているのではないかという点から、ストレスチェックの実施データを元に、今後、改善しなければならない課題を見つけられるよう努めました。
- ・施設内研修の開催については、新型コロナウイルス等の感染予防の点から、各自が指定の動画を視聴し、キーワードや感想を提出することとしました。

(5) 感染症予防対策委員会

- ・ご利用者が感染症に罹患しないように、新型コロナウイルスやインフルエンザや感染性胃腸炎等を中心に、予防対策や発生時の対応を検討し、職員への徹底を促しました。
- ・新型コロナウイルス等感染予防対策として、面会制限の実施、手袋やマス

- ク、オムツ等の早期発注、職員出勤時の検温の実施、手指消毒の徹底、グリーンアクアの常時噴霧等を継続して行いました。
- ・ノートパソコンやタブレット等を活用し、オンラインによる面会を継続して実施しました。また、身体状況の変化や看取りのご利用者への面会については、家族代表による短時間での面会とし、直接会える機会を設けました。
 - ・病床の逼迫により救急搬送等による入院受入が困難なケースが多くあるため、新型コロナウイルスの影響による施設入所継続の意思確認等も併せて行いました。
 - ・抗原検査キットを購入し、家庭内で濃厚接触の疑いがある場合や県外移動を行った場合、学校などがまん延防止のために休校となった場合などに、職員の出勤前及び出勤時において施設独自の抗原検査を実施しました。
 - ・通年開催されていた行事については、新型コロナウイルス等感染症予防の点から、施設全体での行事の開催は自粛し、部署毎に開催時期を分ける、々行事でも参加する時間帯をずらす等の工夫を行いました。
 - ・令和4年8月末から9月末までの間、特養新館において新型コロナウイルス感染症が発生し、ご利用者5名、職員2名が罹患しました。

1 食中毒対策

- ・食中毒予防対策マニュアルを配布し、食中毒予防の観点から、配膳時の手袋とマスク、エプロンの着用を徹底いたしました。
- ・食中毒の発生原因や予防法、また、菌をつけない、増やさない、やっつけるの3原則を基本とし、手洗いの徹底を実施しました。

2 インフルエンザ・ノロウイルス対策

- ・感染症予防対策マニュアルの見直しを行い、流行風邪の蔓延防止対策と感染予防の徹底を促しました。
- ・感染症発生時の対応や手洗い・うがいの徹底と併せて、グリーンアクアの噴霧で感染症防止対策を実施しました。
- ・面会中止や抗インフルエンザウイルス薬の予防投薬等で蔓延防止に努め、感染を最小限に留めました。

3 新型コロナウイルス対策（各事業共通）

- ・面会制限の実施、手袋やマスク、オムツ等の早期発注、職員出勤時の検温の実施、手指消毒の徹底、グリーンアクアの常時噴霧等を行いました。また、居宅サービスでは、送迎時や訪問時の検温を実施し、37.5度以上の発熱や新型コロナウイルスが疑われる症状等がある場合は、その日のサービス利用を中止する対策を設けました。
- ・取引業者による納品や宅急便、パン販売、床屋、ヤクルト販売等についても、一時的に中止したり玄関先での受け取りへ変更したりしました。
- ・通院については必要最低限の受診機会とし、医療機関との連携で電話確認による内服薬の処方を行いました。また、買物や気分転換による外出につい

ては中止し、ご利用者については施設内移動も極力控える（階の移動）よう努めました。

（6）褥瘡予防対策委員会

- ・ご利用者に発赤や褥瘡が発生しないように、個々に合った座位姿勢や体位交換を検討し、エアーマットや低反発マットレスを活用することで、褥瘡予防対策を実施しました。
- ・発生してしまった褥瘡については、医務会議内での状態確認と併せて、嘱託医の助言や皮膚科受診等を継続して行うことで、経過観察と治療を行いました。

④ 栄養及び給食関連

- ・栄養管理については、栄養マネジメントの実施と嗜好調査や日々の食事に関する感想を基に、食事形態の変更や献立の工夫、提供方法や栄養状態の確認等を行いました。
- ・給食会議を定期開催することで、厨房業者と情報を共有し、美味しく安全な食事の提供ができるよう努めました。
- ・昼食開始前には、食事の前の軽運動や口腔体操（パタカラなど）を行い、身体をほぐした上で口腔環境を整え、嚥下機能も刺激しました。
- ・新型コロナウイルス感染予防対策の点から、「職員と一緒に調理する活動（手作りおやつ）」の回数を減らし、密にならないような活動の工夫で感染予防に努めました。
- ・新型コロナウイルス感染症等予防の点から、外食行事は中止し、出前や弁当の注文、特別食の提供等で、外出しなくても通常とは異なった食事が楽しめる工夫を行いました。

⑤ 関係諸機関との連携

- ・定期発行しているおたよりをご家族へ送付し、季節ごとのお知らせや行事の様子などを掲載するなどして情報発信を行いました。
- ・うめじろうの絵柄がついたポケットティッシュ、クリアファイルを製作し、パンフレット配布と合わせて情報発信を行いました。

⑥ ご利用者へのサービス

- ・ご利用者個々の置かれている状況と現在の身体状況を事前に確認し、安心して安全に生活できるようにしました。
- ・個別の要望に応えられるようにし、食事や排泄、入浴や更衣・整容、就寝時の様子、生活スタイル等へ柔軟に対応できるような事前準備を行いました。
- ・認知症の行動や言動、帰宅願望や短期記憶障害、幻視や幻聴、被害妄想等に対する工夫としては、認知症の症状から不安になり落ち着けなくなる姿やそ

れに伴う怒りや悲しみを全て否定することなく、職員が丁寧に話を聴き、ご利用者の気持ちに寄り添うことで安心して滞在できるようにしてきました。

⑦ 実施行事・グループ単位での活動

- ・新型コロナウイルス感染症の予防対策として、例年、施設全体で実施した行事や、居宅部、ケアハウスと一緒にを行う活動を控え、グループ単位での活動や複数のグループが合同で行う活動、お花見や特別食、誕生会や季節行事等の開催も、密にならないような工夫を行い実施しました。

⑧ 環境整備

- ・修繕が必要な箇所について、管理課を中心に適宜修繕を行いました。
- ・照明器具について、蛍光灯からLED照明へ一部入替を行いました。
- ・本館のナースコール機器の入替を行いました。
- ・本館の居室、廊下、ホールの床の張替えを行いました。
- ・本館居室の柱や寮母室のカウンターの塗り替えを行いました。

3 梅の郷居宅部 事業報告

ショートステイ梅の郷

① 事業実施期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日

営業日数 365日

② 利用者（定員10名） 延べ利用者数（介護） 3675名

（予防） 0名

計 3675名

1日平均 10.1名

稼働率 101%

平均介護度 2.5

介護度別利用者人数内訳 要介護度1 4名

要介護度2 2名

要介護度3 2名

要介護度4 3名

要介護度5 2名

（令和5年3月31日時点の実人数）

③ 職員数 6名

（常勤職員5名 非常勤職員1名）

④ 個別援助計画

- ・連続して概ね4日以上利用するご利用者に対して、個別援助計画を作成し

サービス提供しました。

⑤ 関係諸機関との連携

- ・各居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとの連携に努め、ご利用者個々の情報の把握と共有を行いました。
- ・定期発行しているおたよりの送付や空室状況の案内等で、情報発信も行いました。
- ・例年開催しているサロン交流会、介護座談会については、新型コロナウイルス感染症等の影響により中止し、毎月の活動についても、警戒度に応じて活動を自粛しながら密にならないような工夫の中で実施しました。

⑥ 個別ニーズへの対応

- ・ご利用者個々の心身の状況や性格、要望等に添える形でのサービス提供を心がけました。

⑦ 事故防止対策

- ・離床センサーの使用や布団対応、見守りの強化を行い、親切で丁寧なサービス提供を実施しました。
- ・「赤外線センサー」の活用と居室音の聞き取りを行い、夜間の起き出し時の転倒や転落を防ぐ工夫を行いました。
- ・サービス提供中の事故については、事故報告書やひやりはつと報告書を作成し、事故検証と職員意識の確認を行うことで、事故の再発防止に努めました。

令和4年度における事故発生総数（内出血の有無確認含む） 176件

内出血以外の事故発生件数 20件

内訳	転倒転落	11件
	皮膚剥離	1件
	異食	0件
	誤薬	2件
	その他	6件

施設内における内出血の事故発生件数 44件

自宅でできた内出血等と思われるもの 112件

発生が多い時間帯：夜間帯や早朝、午睡時

発生が多い場所：ホール・居室

発生が多い内容：高齢に伴う皮膚状態の悪化から少しの加圧で起きてしまう皮膚剥離や内出血
車椅子からの転落、ベッドからの起きだしによる尻もち等

- ・事故防止対策

離床センサーの使用、布団対応、見守りの強化、市販の「赤外線センサー」の活用。

超低床ベッドの使用。

・施設内研修

委員会主催の研修会については、新型コロナウイルスの影響により、消防職員の立ち合いで開催される救急法講習（AED講習）が中止となり、全てオンラインによる動画視聴研修としました。

⑧ 定期的な利用の受け入れ

- ・定期的に滞在するご利用者の積極的な受け入れにより、稼働率の向上と介護保険収入の安定が継続できるよう努めました。
- ・ご家族と共に在宅介護の継続性を考え、必要があれば主治医への相談援助を行い、専門医等への紹介援助も行いました。
- ・特養のご利用者が医療機関に入院された際の空床利用を積極的に行い、緊急のショートステイ利用やショートステイ利用から特養入所の切り替えをスムーズに行うことで、稼働率の向上に努めました。
- ・令和4年11月と令和5年2月に、それぞれ滞在中のご利用者1名が新型コロナウイルスに罹患しましたが、それ以上の陽性者はなく、大きな感染の拡がりには至りませんでした。

⑨ ご利用者へのサービス

- ・ご利用者個々の置かれている状況を事前に確認し、スムーズに滞在できるようにしました。
- ・個別の要望に応えられるようにし、自宅での更衣や就寝時の様子、生活スタイルなどへ柔軟に対応できるような事前準備を行いました。
- ・認知症の行動や言動、帰宅願望や短期記憶障害、幻視や幻聴、被害妄想等に対する工夫としては、認知症の症状から不安になり落ち着けなくなる姿やそれに伴う怒りや悲しみを全て否定することなく、職員が丁寧に話を聴き、ご利用者の気持ちに寄り添うことで安心して滞在できるようにしました。

⑩ 実施行事

- ・デイサービスと活動を共に行うことに加え、ショートステイ独自の食事会やおやつ作りで楽しみづくりを行いました。
- * 新型コロナウイルス感染症等の予防対策として、感染リスクが少ない内容での実施としました。

⑪ 食事提供

- ・栄養管理については、食事形態の変更や献立の工夫、提供方法や栄養状態の確認等を行いました。

- ・給食会議を定期開催することで、厨房業者と情報を共有し、美味しく安全な食事の提供ができるよう努めました。
- ・昼食開始前には、食事の前の軽運動や口腔体操（パタカラなど）を行い、身体をほぐした上で口腔環境を整え、嚥下機能も刺激しました。
- ・新型コロナウイルス感染予防対策の点から、「職員と一緒に調理する活動（手作りおやつ）」の回数を減らし、密にならないような活動の工夫で感染予防に努めました。

⑫ 環境整備

- ・修繕が必要な箇所について、管理課を中心に適宜修繕を行いました。
- ・本館のナースコール機器の入替を行いました。

デイサービスセンター梅の郷

① 事業実施期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日
 営業日数 307日

② 利用者（定員35名） 延べ利用者数（介 護） 5003名
 （総合事業） 1011名
 計 6014名
 1日平均 19.6名
 稼働率 56%
 平均介護度 1.6

介護度別利用者人数内訳 事業対象者 1名
 要支援1 2名
 要支援2 7名
 要介護度1 22名
 要介護度2 13名
 要介護度3 5名
 要介護度4 2名
 要介護度5 1名

（令和5年3月31日時点の実人数）

③ 職員数 11名
 （常勤職員6名 非常勤職員5名）

④ 個別援助計画

- ・居宅ケアマネジャーの定めるケアプランに基づいて、援助目標を設定し、解決すべき課題を改善できるように、ご利用者個々の個別援助計画に基づい

てサービス提供を行いました。

- ・ご利用者個々の課題分析や評価を明らかにすることで、実態やプランに即したより細かなケアを実践できるようにし、自分たちの提供しているサービスをより身近に感じ、手応えや自己評価につなげられるようにしました。

⑤ 利用者の積極的な受け入れ

- ・親切、丁寧、笑顔のサービス提供で、ご利用者やご家族、地域の心の拠り所になれるような環境づくりに努めました。
- ・ご利用者の突発的な入院や利用休止に伴う曜日毎の数差について、できる限り平均化することを目標にして取り組みました。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、感染リスクを避ける為に、長期にわたりサービス利用を休止するご利用者が複数名いることやサービス利用の開始時期を先延ばしにする等の理由で、稼働率が低下しました。
- ・他サービスとの併用により、新型コロナウイルス感染症を施設内に持ち込み感染が拡大してしまうことを懸念し、ご家族の就労状況や介護サービスの利用状況を事前に調査し、感染リスクを最小限にしながらの新規受け入れを行いました。

⑥ 関係機関との連携

- ・ご利用者の身体状況やご家族からの介護相談等を、担当ケアマネに報告することで、情報の共有に努めました。
- ・居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとの連携に努め、ご利用者個々の情報の把握と共有を行いました。
- ・利用案内の送付、地域サロンや医療機関、薬局へのパンフレット配布、回覧板も活用するなどして情報発信を行いました。
- ・例年開催しているサロン交流会、介護座談会については、新型コロナウイルス感染症等の影響により中止し、毎月の活動についても、警戒度に応じて活動を自粛しながら密にならないような工夫の中で実施しました。

⑦ 事故防止対策

令和4年度における事故発生総数（内出血の有無確認含む） 172件

内出血以外の事故発生件数 18件

内訳	転倒転落	9件
	皮膚剥離	0件
	異食	0件
	誤嚥	0件
	その他	9件

施設内における内出血の事故発生件数 0件

自宅でできた内出血等と思われるもの 154件

発生が多い時間帯：午睡時

発生が多い場所：ホール

発生が多い内容：車椅子からの転落、ベッドからの起きだしによる尻もち等

- ・事故防止対策

離床センサーの使用、見守りの強化、市販の「赤外線センサー」の活用。

- ・施設内研修

委員会主催の研修会については、新型コロナウイルスの影響により、消防職員の立ち合いで開催される救急法講習（AED講習）が中止となり、全てオンラインによる動画視聴研修としました。

⑧ ご利用者様へのサービス

- ・デイサービスでの一日の生活を通して、その場面毎の活動を「生活の中のリハビリ」として位置づけ、ご利用者個々の機能維持に努めるように配慮しました。

- ・ご利用者個々の置かれている状況を事前に確認し、性格や生活歴、家庭で置かれている状況等から、ご利用者が過ごしやすくなるように柔軟に対応しました。

- ・職員が気持を寄り添うことで安心して過ごせるようにもしてきました。

⑨ 実施行事

- ・自然や四季を生かした活動と馴染み深い活動を積極的に行いながら、季節感や懐かしさを味わえる時間を提供し、自立支援を意識した活動への参加で、選択活動を確立させてきました。

- ・新型コロナウイルス感染症の予防対策として、手作りおやつの中止、パーティーを挟んでの活動実施、密にならないように分散して開催できる内容検討等、年間を通じて話し合いの場を設けました。

⑩ 食事提供

- ・栄養管理については、食事形態の変更や献立の工夫、提供方法や栄養状態の確認等を行いました。

- ・給食会議を定期開催することで、厨房業者と情報を共有し、美味しく安全な食事の提供ができるよう努めました。

- ・昼食開始前には、食事の前の軽運動や口腔体操（パタカラなど）を行い、身体をほぐした上で口腔環境を整え、嚥下機能も刺激しました。

- ・新型コロナウイルス感染予防対策の点から、「職員と一緒に調理する活動（手作りおやつ）」の回数を減らし、密にならないような活動の工夫で感染予防に努めました。

⑪ 環境整備

修繕が必要な箇所について、管理課を中心に適宜修繕を行いました。

ホームヘルパーステーション梅の郷

① 事業実施期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
営業日数	262日
サービス提供時間	総時間数 3761時間18分
	内訳 介 護 2380時間30分
	総合事業 1380時間48分
	1日平均 14時間21分
	平均介護度 1.4
介護度別利用者人数内訳	事業対象者 1名
	要支援1 7名
	要支援2 12名
	要介護度1 12名
	要介護度2 6名
	要介護度3 2名
	要介護度4 2名
	要介護度5 1名

(令和5年3月31日時点の実人数)

② 職員数

6名

(常勤職員1名 非常勤職員5名)

③ 個別援助計画

- ・居宅ケアマネージャーの定めるケアプランに基づいて、援助目標を設定し、解決すべき課題を改善できるように、ご利用者個々の個別援助計画に基づいてサービス提供を行いました。
- ・ご利用者個々の課題分析や評価を明らかにすることで、実態やプランに即したより細かなケアを実践できるようにし、自分たちの提供しているサービスをより身近に感じ、手応えや自己評価につなげられるようにしました。

④ 関係機関との連携

- ・ご利用者の身体状況やご家族からの介護相談等を、担当ケアマネに報告することで、情報の共有に努めました。
- ・居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとの連携に努め、ご利用者個々の情報の把握と共有を行いました。
- ・例年開催しているサロン交流会、介護座談会については、新型コロナウイルス

ス感染症等の影響により中止し、毎月の活動についても、警戒度に応じて活動を自粛しながら密にならないような工夫の中で実施しました。

⑤ ヘルパー会議の充実

- ・毎月定期的に行う会議の場で、訪問時の悩みや対応の工夫、利用者の様子などを話し合うことで、職員間での利用者情報の共有に努めました。
- ・「親切丁寧に対応する」ことが徹底できるよう、利用者やその家族への言葉遣いや態度についても意識し、訪問時の自分の姿の振り返りも行いました。
- ・毎月の訪問件数と収支を確認し、入院者や訪問キャンセルの状況、新規利用の見通しを話し合うことで、月次収支を意識して運営できるよう努めました。

⑥ ご利用者様へのサービス

- ・ご利用者個々の置かれている状況を事前に確認し、性格や生活歴、家庭で置かれている状況等から、ご利用者が過ごしやすくなるように柔軟に対応しました。

⑦ 事故防止対策

令和4年度における事故発生総数（内出血の有無確認含む） 44件

内出血以外の事故発生件数 36件

内訳	転倒転落	12件
	皮膚剥離	3件
	火傷	1件
	内出血	8件
	その他	20件

施設内における内出血の事故発生件数 0件

自宅でできた内出血等と思われるもの 44件

昨年度からは、自宅でできた内出血等と思われる事故やケガについても、利用開始時に確認し、家族に連絡する等して情報を共有しました。

ヘルパー訪問した時には、すでに事故が起きた後で、ご利用者の身体状況を確認すると、内出血や皮膚剥離、火傷などが見られていたケースがありました。また、その他としては「訪問すると発熱しぐったりしていた」ケースが5件を多く挙げられています。

⑧ 環境整備

修繕が必要な箇所について、管理課を中心に適宜修繕を行いました。

4 ケアハウスふるさと 事業報告

① 事業実施期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

(1) 入所者 (定員 15 名)	上記期間中の退所者	6 名
	入所者	5 名
(2) 職員数		2 名

② ご利用者への対応

(1) 生活支援

- ・ご利用者の基本的人権を尊重し、自分らしく安心感を得ながら自立した生活が送れるよう、食事や入浴等、ご利用者の状態に応じて支援いたしました。また、ご利用者間の関係性に配慮し、ご利用者の和を意識し支援しました。
- ・ご利用者間の関係性に配慮し、ご利用者の和を意識し支援しました。
- ・ご利用者の美味しさや楽しさが味わえる食事の時間になるように、ご利用者の声に耳を傾け、厨房業者と情報共有（給食会議）を行うことで、献立内容や味付け、盛り付け方などの改善を図りました。

(2) 健康管理

- ・ご利用者の既往歴の把握や毎日のバイタルチェックで、日々の健康状態や生活の様子を把握し、身体面や精神面での状態変化を見逃さないよう努めました。
- ・往診時や通院時にはご利用者の状態報告を行い、主治医との連携に努めました。
- ・ケアハウス独自の介護予防への取り組みとして、ラジオ体操や手足、首、指先の運動を日課とし、身体機能の維持と日常生活の中での転倒防止や免疫力の低下を図りました。
- ・ご利用者の創作活動による折り紙や塗り絵、生け花、写真などを展示することで、生活環境に彩を添え、活動意欲や生きがいを見つける工夫を、デイサービスと共に行いました。

③ 衛生管理

- ・グリーンアクアの常時噴霧や面会者への手指消毒、マスク着用などの呼びかけにより、感染症予防対策を実施しました。
- ・手洗いうがいの実施、ポスター掲示や保存食品の管理の徹底を図り、ご利用者の感染症予防に対する意識を高めながら、インフルエンザやノロウイルス、新型コロナウイルス、食中毒の予防に努めました。
- ・ノートパソコンやタブレット等を活用し、オンラインによる面会の実施や外部の通所介護、通所リハ等の一時的な利用休止等で感染予防に努めました。

④ サービス内容

- ・ご利用者の要望に応じて行っていた、近隣スーパーや薬局等への買い物ツ

アーについては、職員が注文を聞き、代行する形で継続しました。

- ・ご家族による通院が困難な場合には、ご利用者との個別相談により、医療機関への通院介助や薬局への薬取り等を随時実施しました。
- ・気分転換や食事を楽しむ目的として、旬の野菜を天ぷらにして揚げたてを昼食に提供したり、密にならずに簡単にできるおやつ作りを実施したり、生活の中での楽しみづくりを工夫しながら行いました。

⑤ 事故防止対策

令和4年度における事故発生総数（内出血の有無確認含む） 4件

内出血以外の事故発生件数 4件

内訳 転倒転落4件

施設内における内出血の事故発生件数 4件

自宅でできた内出血等と思われるもの 0件

⑥ 環境整備

- ・ご利用者の退去に合わせ、居室やトイレの壁紙と床の張り替えを行い、居心地が良い環境で生活を送ることができるよう、老朽化した部分の修繕を行いました。

5 梅の郷 居宅介護支援 事業報告

(1) 居宅介護支援センター梅の郷

① 事業実施期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日

② 職員数 4名

③ ケアプラン作成

・介護プラン 1070件（24件減）

・介護予防プラン 529件（99件減）

④ 介護認定調査 3件（40件減）

*新型コロナウイルス感染症の影響により感染拡大防止のため中止していましたが、令和3年1月より再開。

*令和4年4月～7月の間、職員1名が療養のため休業。職員体制が落ち着くまでの間については、認定調査中止。

⑤ 地域貢献事業

介護保険外のニーズに対して無償で支援する。

- ・地域貢献事業受付件数 35件（独居利用者の通院、退院支援）

- ⑥ 「介護座談会」「春の感謝祭」「梅田地域サロン交流会」「そば打ち大会」「もちつき大会」「施設見学会」の開催
- ・地域住民、民生委員、関連機関等を招き、勉強会や施設見学会、交流会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、開催を中止しました。
- ⑦ 外出の少ない高齢者への外出支援
- ・梅の郷職員と地域住民との交流の機会を設ける予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、開催を中止しました。